

三世の諸仏の世に出でさせ給ひても、皆々四恩を報ぜよと説き、三皇・五帝・孔子・老子・顔回<sup>がんかい</sup>等の古の賢人は四徳を修せよとなり。四徳とは、一には父母に孝あるべし、二には主に忠あるべし、三には友に合つて礼あるべし、四には劣れるに逢ふて慈悲あれとなり。

一に父母に孝あれとは、たとひ親はものに覚えずとも、<sup>あ</sup>悪しざまなる事を云ふとも、<sup>いささか</sup>聊も腹も立てず、誤る顔を見せず、親の云ふ事に一分も違へず、親によき物を与へんと思ひて、せめてやる事なくば一日に二三度<sup>笑</sup>えみて向かへとなり。二に主に合ふて忠あるべしとは、いさゝかも主に<sup>後</sup>うしろめたなき心あるべからず。たとひ我が身は失なはるとも、主には<sup>構</sup>かまへてよかれと思ふべし。<sup>隠</sup>かくれての信あれば、あらはれての徳あるなりと云云。三には友にあふて礼あれとは、友達の一日に十度二十度来たれる人なりとも、千里二千里来たれる人の如く思ふて、礼儀いさゝか<sup>疎</sup>を<sup>略</sup>ろかに思ふべからず。四に劣れる者に慈悲あれとは、我より劣りたらん人をば我が子の如く思ひて一切あはれみ慈悲あるべし。此を四徳と云ふなり。是くの如く振る舞ふを賢人とも聖人とも云ふべし。此の四の事あれば余の事にはよからねどもよき者なり。是くの如く四の徳を振る舞ふ人は、<sup>げてん</sup>外典三千巻をよまねども、読みたる人となれり。

仏教の四恩とは、一には父母の恩を報ぜよ、二には国主の恩を報ぜよ、三には一切衆生の恩を報ぜよ、四には三宝の恩を報ぜよ。一に父母の恩を報ぜよとは、父母の赤白二涕和合して我が身となる。母の胎内に宿る事、二百七十日九月の間、三十七度死ぬるほどの苦みあり。生み落とす時、たへがたしと思ひ念ずる息、<sup>いただき</sup>頂より出づる<sup>けむりぼんてん</sup>煙梵天に至る。さて生み落とされて乳をのむ事一百八十余石。三年が間は父母の膝に遊び、人となりて仏教を信ずれば、先づ此の父と母との恩を報ずべし。父の恩の高き事<sup>しゅみせん</sup>須弥山も<sup>なお</sup>猶ひきし。母の恩の深き事大海還つて浅し。相構へて父母の恩を報ずべし。二に国主の恩を報ぜよとは、<sup>このかた</sup>生まれて已来衣食のたぐひより始めて皆是国主の恩を得てある者なれば、<sup>げんぜあんのんごしやうぜんしよ</sup>現世安穩後生善処と祈り奉るべし。三に一切衆生の恩を報ぜよとは、されば昔は一切の男は父なり女は母なり。然る間生々世々に皆恩ある衆生なれば皆仏になれと思ふべきなり。四に三宝の恩を報ぜよとは、最初成道の華嚴経を尋ぬれば、経も大乘、仏も報身如来にて<sup>ましま</sup>坐す間、二乗等は<sup>ふくろう</sup>昼の梟、夜の鷹の如くして、かれを聞くといへども耳し

み目しみの如し。然る間、四恩を報ずべきかと思ふに、女人をきはれたる間母の恩報  
じがたし。次に仏、阿含小乗経を説き給ひし事十二年、是こそ小乗なれば我等が機にし  
たがふべきかと思へば、男は五戒、女は十戒、法師は二百五十戒、尼は五百戒を持ちて  
三千の威儀いぎを具すべしと説きたれば、末代の我等かなふべしともおぼえねば母の恩報  
じがたし。況んや此の経にもきはれたり。方等ほうどう・般若ほんにや四十余年の経々に皆女人をきは  
れたり。但し天女成仏経・観経等にすこし女人の得道の経文有りといへども、但名のみ  
有って実なきなり。其の上、未顕真実の経なれば如何が有りけん、四十余年の経々に皆  
女人を嫌はれたり。又最後に説き給ひたる涅槃経にも女人を嫌はれたり。何れか四恩を  
報ずる経有りと尋ぬれば、法華経こそ女人の成仏する経なれば八歳のりゅうによ竜女成仏し、仏  
の姨母おばきょうどんみ 憍曇弥やしゅだらびくにきべつ・耶輸陀羅比丘尼記にきべつにあづかりぬ。されば我等が母は但女人の体にて  
こそ候へ。畜生にもあらず、蛇身にもあらず。八歳の竜女だにも仏になる。如何ぞ此の  
経の力にて我が母の仏にならざるべき。されば法華経を持つ人は父と母との恩を報ずる  
なり。我が心には報ずると思はねども、此の経の力にて報ずるなり。

然る間釈迦・多宝等の十方無量の仏、上行地涌等の菩薩も、普賢・文殊等の迹化の  
大士も、舍利弗等の諸大だいしやうもん声聞も、大梵天王・日月等の明主諸天も、八部王も、十羅刹女  
等も、日本国中の大小の諸神も、総じて此の法華経を強く信じまいらせて、余念なく一  
筋に信仰する者をば、影の身にそふが如く守らせ給ひ候なり。相構へて相構へて、心を  
ひるが翻へさず一筋に信じ給ふならば、現世安穩後生善処なるべし。恐々謹言。

日 蓮 花 押

上 野 殿